

礼儀で働く女性の  
1日をCheck!



CASE 3

くわはら  
桑原 かほるさん

3人の子どもが独立し、  
夫(59歳)と2人暮らし。

57歳。15年間の専業主婦生活を経て仕事を再開。飲料メーカーのマーケティングを経て、41歳で住宅メーカーのモデルハウスでパート勤務に。現在15年目



来客にアンケートを渡すのは大切な仕事。その先の商談につながる重要なデータです

介護の負担が急増。でも、「働いていてよかった」。好きな仕事で社会とつながりを持てるから

“好き”が原点で始めた  
モデルハウスでの仕事

「もともとモデルハウスが好きでよく見に行っていた」という桑原さん。前職をやめ「そろそろ仕事を…」と思ったとき現職の求人広告に出会い、すぐに応募しました。採用が決まり15年間、1棟のモデルハウスで接客から清掃などの管理まで行っています。土日は稼ごきなので、どちらかは必ず出勤。「土日が休みの夫に慣れてもらうのは大変でした」と話します。

「嫌いな家事はプロに」  
などのルールで少しずつ楽に

年代的にも、もともと夫は妻が働くのに否定的で「夜中まで家事をして睡眠時間を削っていた時期もありました」。でも数年かけて徐々に家族の生活リズムが合うように。さらに「苦手なアイロンがけはクリーニングに」「買い物には宅配システムを導入」など、プロの手も活用することになりました。

仕事の楽しさを伝え、  
夫の理解度をUP!

夫の理解を得るために心がけたのは、仕事であった出来事や失敗談を話すこと。「今日はこんな面白いことがあったよ!」と楽しんで働いていると伝えることで仕事内容を理解してくれました。今は聞くのを楽しみにしてくれているみたい。家事の面でも几帳面な夫の性格を生かして、ゴミ出しなどルールを定めて頼むように。

社会とつながり、勉強になる  
仕事を。目標は“生涯現役”!

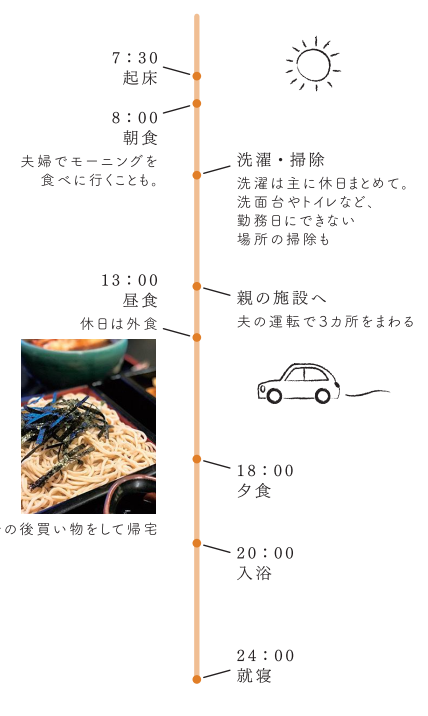
子どもは独立したものの、昨年から介護の負担が急増。「夫の母と私の両親が別の施設に入ったんです」。でも、だからこそ「働いていてよかった」と話します。「社会とつながりが持てるし、勉強になる仕事だから。好きな仕事でスキルアップできることが桑原さんの毎日を輝かせているようです。「老け込まず長く働きたい」と“生涯現役”を目指しています。

Working day  
仕事の日



桑原かほるさんの1日

Holiday  
休みの日



田川さん's  
Check

ホワイトボードで予定を確認するのは、お互いの予定を“見える化”するのに最適。とてもいい方法です。できれば、夫と2人で行う家事を増やせるといいですね。夫の家事レポーターが増えれば、桑原さんの不在時にも対応できるスキルになります。



桑原かほるさんの  
MY“ゆる家事”ルール

家族の理解を一番に考える。苦手な家事は外注も!